

## 「エメラルドブルーの宝物」

国立大学法人琉球大学教育学部附属小学校 6年生 豊田 海皇

海の幸。あなたはこの言葉を聞き、ピンとくるでしょうか。後にこれが観光と重要な関わりがあることが分かるはずです。

「いた!!」

「やった～獲ったぞ～」

ここは宜野湾市トロピカルビーチ。の、海の上です。じつは、ぼくは今、リーフの上にあります。リーフとは、沖縄のサンゴで出来た干潟のことです。

ぼくは休日、リーフで魚を獲ったりして遊んでいます。これも海の幸だと思います。

中国人観光客の方が、ぼくが獲った魚を観て、笑顔でグッドサインをしてくれました。ぼくにむかって、「かわいい」というような言葉をかけてくれたのです。言葉は分からなくても、心は通じると思いました。その瞬間なんだかぼくはとてもうれしい気持ちになりました。言葉が通じなくても、心をつなぎ、お互い、とても幸せな気持ちになれた瞬間。またこれも海の幸だと思います。

そしてもう一つ、海の幸についてのエピソードがあります。

その日はいつものように海へ行くと、韓国人観光客の親子が、クラゲネットの外で海に入っていました。するとライフガードのお兄さん達が注意をしに行きました。その母親は不機嫌そうな顔になっていました。「大丈夫かなあ」と思っていると、少年の方がなんとなく理解したようで、おどろいた事に、ライフガードのお兄さんにおじぎをしたのです。そして、母親の手を引き、クラゲネットの中に入って行きました。ぼくは、その母親の事が気になって、しばらくしてから様子を見に行きました。

すると、親子でとても楽しそうに遊んでいたのです。それをみて、ぼくの心はホワッと温かいものが大きく広がった気がしました。

このように、沖縄の大自然からの恩恵の一つである海は、キレイなだけでなく、言葉だけではとることのできないコミュニケーションを与えてくれています。このようなキレイな海を守り、ここに暮らす沖縄の人々や毎年たくさんの観光客の方が訪れてくれる美ら海沖縄と、ぼくはどう向き合っていくべきか考えます。あるビーチでは海藻がたまりすぎています。また、あるビーチでは流木がたまり砂浜が危険にされされています。エメラルドブルーの宝物、心をつなぐ海の幸が汚されているのです。

ぼくから提案します。一人一人がクリーン活動を行います。すると、きっとやさしい沖縄県民の方々は、それに協力してくれるはずです。そうすれば海はキレイになります。名づけて、「守り続けよう、美ら海プロジェクト」です。

一度でも、それを実行してみてください。

エメラルドブルーの宝物を守り続けるために。